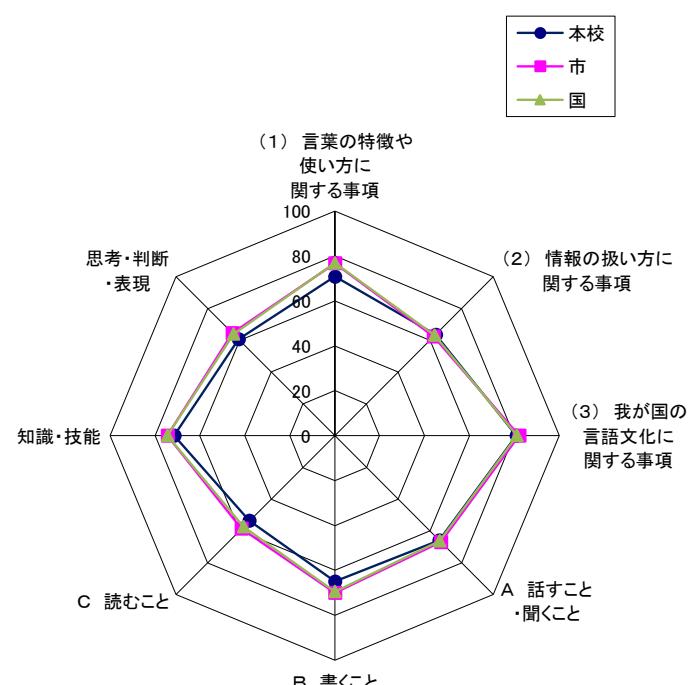


# 宇都宮市立宝木小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.9	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	63.5	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	80.9	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	65.8	67.0	66.3
	B 書くこと	64.9	70.0	69.5
	C 読むこと	53.7	58.6	57.5
観点	知識・技能	71.5	74.5	74.5
	思考・判断・表現	60.7	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
		今後の指導の重点	
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	本校の正答率は70.9%で、全国平均より6ポイント低かった。 ○言葉のつながりや意味の理解については一定の定着が見られた。 ●漢字の書き取り問題では全国平均と比べると13ポイント低い。	・漢字の書き取りに関しては、全体指導と共に、個に応じた指導・支援のアプローチをしながら一人一人が漢字を書きとる力が高まるようにしていく。 ・語彙力を高める指導を継続しつつ、文脈の中で言葉の使い方を捉える指導を強化する。 ・プリントやICT教材を活用し、多様な言語環境での語彙の使い分けにも取り組む。	
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は63.5%で全国平均よりやや上回った。 ○情報同士の関係を理解することができている。	・他教科においても言葉だけでなく図や表などを使いながら、情報を関連付け、まとめる学習活動を取り入れていく。	
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は80.9%で全国平均と同程度であった。 ○時間の経過による言葉の変化や、世代による言葉の変化に気付けていた児童の割合は全国平均と同程度であった。	・平均正答率が同程度であったことから、ある程度の生活経験と言語を結び付けていることがわかる。授業や学校生活においても言語と意識的に関連させていきたい。	
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は68.9%で全国平均と同程度であった。 ○目的や意図に応じて生活の中から話題を決める問題の正答率は全国平均と比べ5ポイント高かった。 ●聞き手の意図や話の流れを捉える問題で正答率が全国平均より8ポイント低く、相手の考え方を的確に受け取る力に課題が見られた。	・話し合い活動を通して、意見の要点をメモにまとめるスキルや、要約・質問の仕方を明示的に指導し、発言意図を捉える練習を重ねる。 ・目的に応じて適切な情報を収集したり話の内容を捉えたりすることが難しい。そのため国語だけではなく他教科においても目的に応じた聴き方・話しかができるように指導する。	
B 書くこと	平均正答率は64.9%で全国平均より5ポイント低かった。 ●感想や意見を文章で述べる設問では、全国平均より10ポイント程度低かった。記述への苦手意識が見受けられる。	・段落構成・理由の述べ方など、書く内容の「型」を明示して記述するための支援をし、書くことに対する自信を持たせる。 ・作文や意見文を書く機会を意図的に増やす。	
C 読むこと	平均正答率は53.7%で全国平均と比べ4ポイント低い。 ○物語の描写の読み取りでは全国平均と同程度の成果が見られた。 ●登場人物の関係を捉える問題で正答率が低かった。 ●事実・感想・意見などを整理して使い分けることや、目的に応じて必要な情報を選択することに課題がある。	・登場人物の関係図を用いた読解活動を通して、文中の描写を基に論理的に関係を捉える読解力を育成する。読み聞かせや紹介活動も活用し、読書への興味を高める。 ・話し合いの目的や自分の知りたいことに合わせて必要な情報を見つけられるように、目的を明示・共有してから学習活動に取り組むようにする。	